

アラスカ便り



第2回

フェアバンクスに到着してはじめての半月間は、空港から車で5分ほどの場所にあるモーテルに宿泊していたが、IARC/UAF (International Arctic Research Center/University of Alaska Fairbanks) でお世話になっている秘書の方の照会もあって、9月以降は冬季のみUAF関係の長期滞在者向けに貸し出しているホテルの部屋に移ることができた。宿から大学まではMACS (Metropolitan Area Commuter System) と呼ばれている市バスを利用している(写真1)。MACSは、フェアバンクス中心部や大学などを循環するものや、ノースポールという近くの町を結ぶものなど全10系統ある。運転本数は30~60分に1本程度で、土曜日は本数が半減し日曜日は運休しているが、慣れればそれほど不自由はしない。バスの中では時折、乗客同士や運転手も加わって話に花を咲かせている。私はそれを聞いて、ヒアリングの訓練をするのが日課になっている。

9月は季節が駆け足で移り行く様子を体感する1か月であった。9月初めは雲ひとつないような清々しい晴天が続く(写真2)、気温が20°Cを超えるような(こちらにしては)暖かい日もあった。こちらではこのような晴天を「Indian summer」と呼ぶらしい。日本で言う「小春日和」ということであろうか。

そんな穏やかな日々も長くは続かず、9月中頃になると曇りがちの日が多くなり気温もぐっと下がった。ふと気づけば、辺りの落葉樹は鮮やかな黄色に色づいている。冷たい雨や風に当たるたびに黄葉した葉は落ち、9月終わりにはほとんど落葉してしまった。

9月27日の朝には、こちらに来て初めての雪を経験した。初雪だろうか。翌28日にも雪が舞い(写真3)、2日連続となった。この頃の気温は晴れた朝には氷点下に達し、雪の日にはむしろ暖かい。フェアバンクス市内ではまだ積雪はないが、例年では10月中旬になると銀世界となるらしい。スノーブーツを早めに手に入れなければなるまい。

2016年10月3日

渡来 靖 (環境システム学科)



写真1: UAF構内を走る市バス(左)。右は大学の学内循環バス



写真2: 9月7日、好天のIARC周辺



写真3: 9月28日、2回目の雪の朝に滞在先のアパートを出て近くのバス停まで向かう様子